

東北電力グループ
SDGsコミュニケーションブック

Tohoku Electric Power Group
SDGs Communication Book



はじめに



- SDGs(Sustainable Development Goals)は、国連が持続可能な社会を実現するために定めた目標です。実現には、経済成長、社会的包摂（誰一人取り残さない社会）、環境保護の調和が必要とされています。
- SDGsの17の目標は、人間（People）、豊かさ（Prosperity）、地球（Planet）、平和（Peace）、パートナーシップ（Partnership）に関わるもので、2030年までに達成すべきとされています。
- 東北電力グループでは、事業を通じてSDGs達成に貢献する取り組みを行っています。それぞれに関連の深いSDGsの目標とともに、8つのキーワードで紹介します。



より、そう、ちから。
東北電力グループ

SDGsへの取り組みキーワード

1. S+3E
2. 電気の安定供給
3. カーボンニュートラル
4. 生物多様性
5. 循環型社会
6. イキイキと働く
7. 地域社会との共栄
8. 未来世代とともに



KEYWORD / 01

S+3E

安全性(Safety) 、安定供給確保(Energy security)、
環境(Environment)、経済性(Economy)の4つの要件



7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに

9 産業と技術革新の 基盤をつくろう

電気をお届けするときに わたしたちが大切にしていること

- 私たちの暮らしには電気などのエネルギーが欠かせません。電気をつくる発電方法には、再生可能エネルギー発電、火力発電、原子力発電など、さまざまな方法があります。
- 各発電方法には長所と短所があります。例えば、火力発電は需要の変化に合わせた発電ができますが、燃料となる石炭の燃焼時に二酸化炭素を多く排出します。
- 東北電力グループは、「S+3E」の観点から発電方法をバランス良く組み合わせるエネルギーミックスを行っています。



電源ごとの長所と短所を補完しあうエネルギーミックス

	 水力・地熱	 風力・太陽光	 バイオマス	 火 力	 原子力
長所	● 輸入に頼らない ● 燃料を必要としない ● 発電時にCO_2を排出しない	● 輸入に頼らない ● 燃料を必要としない ● 発電時にCO_2を排出しない	● 間伐材などを有効活用できる ● 森林など原料の成長過程でCO_2を吸収	● 発電量が調整しやすい ● 発電時に使う燃料が扱いやすい	● 発電時にCO_2を排出しない ● 少ない燃料で発電できる
短所	●水力は新たに開発できる場所が少ない ●地熱は地下の調査など開発に長期間が必要で、開発地点に制約がある	● 気候や自然に左右され発電量が不安定 ● 大量導入するには、電気を送る送電網の整備などにもお金がかかる	● 資源が広い地域に分散しており、収集・運搬に課題がある	● 資源のほとんどを輸入に頼っている ● 発電時にCO_2を排出する	● 事故発生時の被害が大きい ● 放射性物質や放射線の適切な管理が必要



KEYWORD / 02

電気の安定供給

災害などあらゆる状況に対応し、必要とされる電気を十分にお届けすること



9 産業と技術革新の基盤をつくろう

11 住み続けられるまちづくりを

13 気候変動に具体的な対策を

繰り返す自然災害
いつも、どんなときも電気を届ける

- 気候変動の影響で自然災害が激しくなり、大規模な被害を受けるリスクが高まっています。
- あらかじめ災害に強い設備を造るとともに、被害が発生した場合はすぐに復旧できるよう、対応する人々が日ごろから十分に備えておくことが必要です。
- 東北電力グループは電気の安定供給を続けるため、日ごろの保守はもちろん、災害に強い設備形成や災害対応訓練を行っています。



設備の建設・保守とすみやかな復旧に向けた防災協定・訓練



スマートグラスなど最新技術を活用した保守・点検



災害に強い設備形成とすみやかな復旧対応



災害に備えた日ごろからの訓練



自治体や自衛隊などとの防災協定

KEYWORD / 03

カーボンニュートラル

二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの排出量を実質的にゼロにすること



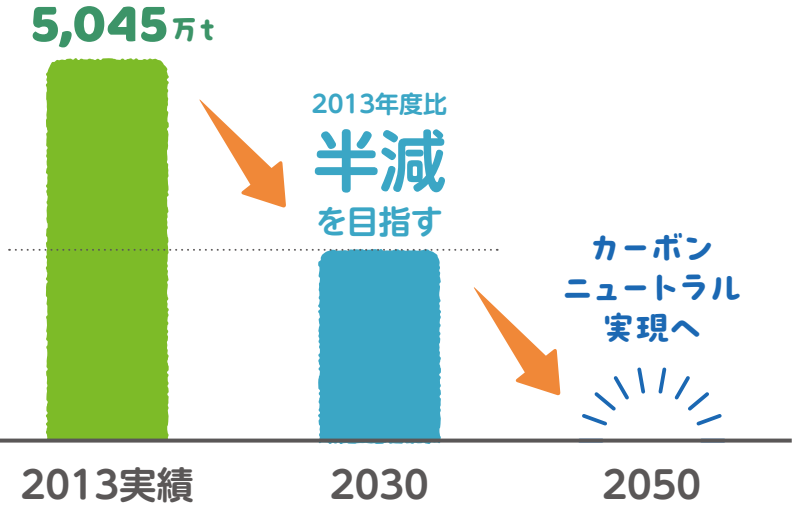
7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに

13 気候変動に 具体的な対策を

気候変動問題の解決に向けて

- 気候変動により異常気象や自然災害などが増加し、私たちの生活だけでなく、動物・植物の生息環境も負の影響を受けています。
- 気候変動を抑えるためには、再生可能エネルギーの活用などにより温暖化の原因となる二酸化炭素の排出を減らす必要があります。二酸化炭素排出に関する目標として、日本を含む世界の国々は、2050年までに「カーボンニュートラル」を目指しています。
- 東北電力グループも「カーボンニュートラルチャレンジ2050」を宣言し、同じ目標達成に向けて挑戦しています。

CO_2排出量



東北電力グループのCO_2排出目標

発電と電気のご使用の両面からのカーボンニュートラル

再生可能エネルギーの新規開発や女川2号機の再稼働





再生可能エネルギーと原子力の最大限活用

燃焼時にCO_2を排出しない水素・アンモニアの混焼



火力の脱炭素化

自家用太陽光・蓄電池などの分散型電源サービス



電化とスマート社会の実現



KEYWORD / 04

生物多様性

地球にたくさんの種の生き物がいること



14 海の豊かさを守ろう

15 陸の豊かさも守ろう

生物はお互いに依存し、影響し合うからこそ

- 自然の中では、たくさんの生物がお互いに関わり合って生態系のバランスを保っています。また、生物多様性は資源や食糧の供給を支え、人々の産業や命の源となっています。
- ところが、開発や汚染、気候変動などにより、生息環境が悪化して、生物多様性が失われつつあります。
- 東北電力グループは、生物多様性がもたらす恵みに感謝し、生物多様性にできるだけ影響を与えないようにする取り組みを行っています。



発電所や送電設備での生物多様性を守る取り組み



火力発電所周辺の水質・大気の調査および保全対策



鉄塔(てっとう)工事後の緑化



水力発電所の魚道整備



火力発電所でのハヤブサの人工巣設置



KEYWORD / 05

循環型社会

資源の利用と廃棄を最小限に抑え、リサイクルなどにより資源を循環させる社会



6 安全な水とトイレを世界中に

12 つくる責任 つかう責任

持続可能な資源利用のために

- 資源は有限であり、大量にとると、無くなってしまいます。また、廃棄物には、自然の力では分解できないものもあります。そして、生産、流通、処分にはエネルギーが必要です。
- 資源の枯渇を防ぎ、廃棄物を減らすためには、無駄遣いをやめて、リサイクルなどにより資源を循環させることが求められます。
- 東北電力グループは廃棄物削減やエネルギー効率向上など、循環型社会に繋がる取り組みを行っています。



資源を有効活用し、廃棄物を減らす循環型社会形成



廃プラスチックを電柱の転倒防止のため設置する
「ねかせ」に再生



変電・送電線など建設工事で発生する伐採木を
チップ化し、バイオマス燃料として活用



水力発電所を改修して発電効率を上げて、
水資源を有効活用



配電資機材の修理・再利用や、
使用済み電線の再生利用

KEYWORD / 06

イキイキと働く

心身ともに健康で、自分の能力を発揮しながら、
ワーク・ライフ・バランスのとれた働き方をすること





安全と健康、そして働きがいと働きやすさ

- 人は誰(だれ)でも、生まれつき、「人間が人間らしく尊厳をもって幸せに生きる権利」があり、これを"人権"といいます。
- 職場も、安全と健康の確保、適正な労働時間、差別やハラスメントの禁止など、人権を守り、個性や多様な価値観が認められ、皆(みな)が能力を発揮できる環境(かんきょう)が大切です。
- 東北電力グループでは、労働時間・安全衛生管理の他、多様性の尊重、ワーク・ライフ・バランスのための勤務制度、十分な学習機会など、イキイキと働くことのできる職場づくりをしています。



安全と健康をベースに多様な人財がイキイキと働く職場作り



労働災害ゼロに向けた安全パトロール



女性管理職の情報交換会



テレワークやフレックス制など、勤務制度の充実



スキルアップのための技能訓練や、オンライン学習の充実



KEYWORD / 07

地域社会との共栄

私たちだからできることに挑戦し、豊かな社会と自らの成長を実現する



17 パートナーシップで目標を達成しよう

パートナーシップで社会をもっと豊かに

- 人口減少・少子高齢化に伴う産業の担い手不足、サービスへのニーズの変化など、地域でもさまざまな社会課題が顕在化しています。
- どんな課題も誰かと協力し合うことで、より良い解決策を見つけることができます。地域社会でも、自治体・企業・学校などが連携することが大切です。
- 東北電力グループは「地域社会との共栄」を経営理念としています。これからも快適・安全・安心なくらしの実現を通じて、社会の発展に貢献していきます。



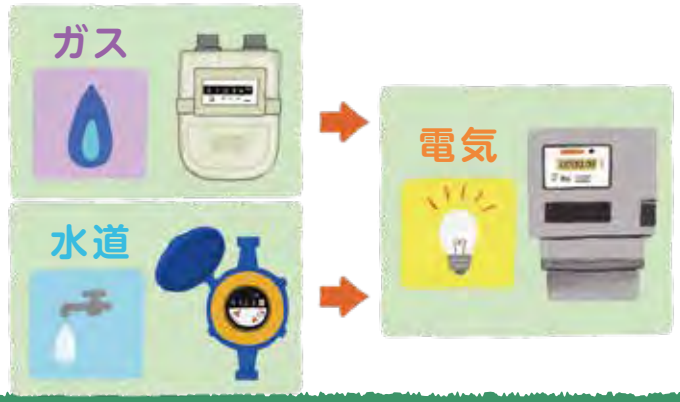
地域の皆さまとともに、課題解決や伝統文化の継承に取り組む



お祭りへの参加



地域の活性化を支援



スマートメーター通信システムを活用した
「電気・ガス・水道共同検針」

東北電力　　東北大学



東北大学と連携した研究開発
「共創研究所」を設置



KEYWORD / 08

未来世代とともに

これからの子どもたちが、社会を持続可能な形で発展させられるようにする



4 質の高い教育をみんなに

未来世代を産み、育て、社会を引き継ぐために



- 持続可能な社会であるためには、気候変動や人権などの課題を解決していくとともに、次の世代を育てていかなければなりません。
- そのためには、子育てしやすい社会をつくるとともに、未来を担う次の世代が、質の高い教育を受けられ、また、社会課題や社会を支える技術に関心を持つ機会が必要です。
- 東北電力グループは、従業員が育児と仕事を両立しやすい環境を整えるとともに、子どもたちがエネルギーについて学べる機会をつくっています。

学ぶ機会の提供や、育児と仕事の両立支援の取り組み



職場体験・インターンシップ



発電の仕組みなどを学べるPR施設



電気の安定供給に関する技術講習



育児と仕事を両立できる仕組みづくり




より、そう、ちから。
東北電力グループ
取り組みの詳細はこちらの資料で紹介しています。
東北電力グループ 統合報告書